



学 会 通 信

第 115 号

2025 年 7 月 4 日発行

目次

ICoME2025 のご案内【最終報】	2
第 32 回年次大会のご案内【第 2 報】	4
2024 年度臨時総会議事録	8
第 11 期第 3 回理事会（定例）議事録	8
論文投稿のご案内	11
学会費納入のお願い，入会者・退会者	12

国際学会 ICoME2025 のご案内

研究委員会（国際研究会 ICoME 担当）

ICoME (International Conference for Media in Education) は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育工学会 (CAET)、アメリカ TCC (Teaching, Colleges and Community) との連携によって開催される国際学会です。

ICoME2025 は、KAEIM がホストとなり、韓国にて開催されます。開催場所および日程は以下の通りとなっております。発表申し込み期限はすでに終わっておりますが、参加のみの方も歓迎いたします。ICoME は、研究者や教育関係者、大学院生や学部生の貴重な国際的な学術交流の機会となっております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

■日時：2025 年 8 月 7 日（木）－9 日（土）

■場所：Inha University（韓国・仁川市）

※原則オンラインでの発表はありません

■テーマ：Transforming Educational Media: Towards Accountable and Inclusive Future Learning

※テーマに限らず、教育メディアに関するその他の発表も広く募集しています。

■ウェブサイト：<https://www.icome.media/>

※参加申し込みは全て上記ウェブサイトにて受け付けております。

※学会に関する最新の情報は随時ウェブサイトにてお知らせいたします。今後詳細情報がアップデートされますので、適宜ご確認いただきますようお願いいたします。

■学会までのスケジュール（プロポーザル・論文提出・参加申込期限）【厳守】

・~~5 月 14 日（水）：Concurrent Session プロポーザル提出期限~~ ※終了しました

・~~5 月 28 日（水）：Concurrent Session 発表可否通知~~ ※終了しました

・~~5 月 28 日（水）：Roundtable Session プロポーザル提出期限~~ ※終了しました

・~~6 月 9 日（月）：Roundtable Session 発表可否通知~~ ※終了しました

・7 月 13 日（日）：すべてのセッションの原稿提出期限

■プレゼンテーションの種類と論文の提出期限（プロポーザル提出済みの方のみ論文提出可能）

Concurrent Session

- ・大学教員、博士課程大学院生、現職教員などを対象
- ・プロポーザルの提出とその承認を必要とします
- ・6－8 ページ以内の原稿提出を必要とします（提出期限：7 月 13 日）※訂正あり
- ・提出された原稿はオンライン上で公開（予定）
- ・原稿とプレゼンテーションはすべて英語

Roundtable Session

- ・主に修士課程大学院生、学部生を対象
- ・プロポーザルの提出とその承認（確認のみ）を必要とします
- ・2-4 ページ以内の原稿提出を必要とします（提出期限：7月13日）※訂正あり
- ・提出された原稿はオンライン上で公開（予定）
- ・原稿とプレゼンテーションはすべて英語
- ・優秀発表者には「Young Scholar Award」が授与されます（発表者全体の20%程度）

■ 予定セッション

Track 1: Learning Science and Computer-Supported Collaborative Learning (CSCL)

Track 2: Artificial Intelligence in Education

Track 3: VR/AR/XR in Education

Track 4: Big Data in Education, Learning Analytics and Precision Teaching

Track 5: STEM Education and Maker Education

Track 6: Teaching Transformation and Teacher Professional Development Empowered by Digital Intelligence

Track 7: Design Theories and Principles for Educational Media

Track 8: Others

■ 参加費

JAEMS 会員 : USD 100 / KRW 130,000

非会員 : USD 120 / KRW 150,000

学生 : USD 30 / KRW 40,000

- ・詳細は、以下のページをご参照ください。

<https://www.icome.media/registration>

■ 問い合わせ

ICoME2025 に関するお問い合わせは、ウェブサイトに記載された問合せメールアドレスへお願いいたします。

2025 年度第 32 回日本教育メディア学会年次大会ご案内【第 2 報】

大会実行委員会・年次大会委員会

第 32 回年次大会は、2025 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間、北海道教育大学函館校で開催されます。

<https://jaems.jp/conference-32th-1st/>

<日本教育メディア学会第 32 回年次大会 開催にあたってのご挨拶>

年次大会実行委員長 山口好和（北海道教育大学函館校）

第 32 回日本教育メディア学会年次大会は、北海道教育大学函館校を会場として、2025 年 11 月 1 日（土）、2 日（日）の 2 日間にわたって開催いたします。2022 年度大会から、名古屋、大阪、鹿児島と順調に受け継いでこられた対面開催のバトンを、北海道で受け取ります。

今年はラジオ放送の開始からちょうど 100 年を迎えるとともに、全国向け学校放送が始まって 90 年目という節目の年でもあります。「日本放送教育学会」をルーツの一つに持つ本学会こそ、教育における放送メディアの意義・役割を語ることが求められます。

学校教育現場では「GIGA 端末」の普及・活用をめぐる議論が続く中で、「生成 AI の活用」「デジタル・シチズンシップ」など新たな課題もうまれています。また生涯学習機関や子育て支援の現場においても、データベースや各種アプリの利用が基本となっています。学ぶことや働くことの意味、学校・職場や医療・福祉制度のありかた、地域コミュニティの役割などが問い直される中で、教育メディア研究に何ができるのか。本大会では、研究・実践の成果をより広い視点で、より深い考察へと通じる対話の場にしたいと考えております。

開港都市の一つである函館では、異国情緒漂う建造物や魅力的な景観とともに、多くの新鮮な山の幸・海の幸に出会えます。市内の施設や大会会場も、空港や駅からのアクセスがしやすい距離にあります。ご参加の皆さまには、街並みもあわせてお楽しみ頂きたいと思います。

大会初日には赤レンガ倉庫での懇親会も開催予定です。大会実行委員会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

<プログラム>

◆1 日目：11 月 1 日（土）

11:00－12:00 理事会

12:00－ 受付

13:00－13:50 総会

14:00－15:45 シンポジウム

【放送開始 100 年記念】放送教育のこれまでと GIGA 第二期でのメディア教育

- 登壇者 ・佐藤知条 会員（静岡産業大学）
 ・宇治橋祐之 会員（NHK 放送文化研究所）
 ・菅原弘一 会員（宮城教育大学）
 ・関谷優衣（仙台市立黒松小学校）

コーディネーター ・豊田充崇 会員（和歌山大学）

16:00－17:30 一般研究発表（1）

18:30－20:30 懇親会（「函館ビヤホール」函館市末広町 14-12 を予定）

◆2 日目：11 月 2 日（日）

09:00－09:30 特定課題研究（SIG）報告会

『メディア・リテラシーSIG』『アートベース・リサーチ SIG』『放送教育 SIG』

09:45－11:45 課題研究

11:45－12:45 昼食

12:45－14:15 一般研究発表（2）

14:25－15:55 一般研究発表（3）

※一般研究発表：発表 20 分，質疑 8 分，入れ替え 2 分を予定

<各種スケジュール>

- 4 月下旬 課題研究プロポーザルの受付を開始しました
 7 月 10 日（木） 課題研究プロポーザル締切
 7 月末～8 月上旬 結果通知（各コーディネーターから応募者に直接通知）
 8 月 31 日（日） 参加受付・一般研究の発表申し込み開始
 9 月 30 日（火） 発表原稿提出期限，参加及び懇親会申込期限

<年次大会及び懇親会参加費>

- 年次大会参加費 会 員 3000 円（事前も当日も同じ）
 非会員 4000 円（事前も当日も同じ）
 ※ただし，非会員の現職教員は無料
 ※支払は Peatix のみとし，その場で現金の受け渡しは実施しません
 学生会員 1000 円（事前も当日も同じ）
 学生非会員 2000 円（事前も当日も同じ）
 懇親会参加費 会 員 6500 円
 学 生 4000 円
 ※申し込み方法 9 月 30 日（火）までの事前申込制
 ※「函館ビヤホール」函館市末広町 14-12 を予定

<課題研究>

◆課題研究 1 デジタル学習基盤を前提とする放送番組・動画コンテンツを活用した教育実践研究

コーディネーター：小林祐紀（放送大学）、木村明憲（桃山学院大学）、白井健大（日本放送協会）

2025 年 3 月に放送開始 100 年を迎えた。テレビ学校放送番組においても 65 年以上の歴史を有している。放送教育の流れをくむ本学会においても、これまでに放送番組や動画コンテンツを活用した教育実践及び教育実践研究による知見が多く蓄積されているところである。そして現在、GIGA スクール構想によって整備された学習環境はデジタル学習基盤として、これらを前提とした授業設計が求められるようになった。端末や高速通信環境の整備に伴い、放送番組や動画コンテンツの視聴方法は多様化した一方で、番組のストーリー性を重視した一斉視聴の価値を見直す動きも見られる。さらに、クラウドの活用によって、チャット等を使いリアルタイムで視聴メモを共有することが可能となり、これまでにない教育実践の可能性が見出されつつある。そして、学習者に求められる映像視聴に関する能力の再構築も求められていると強く感じられる。こうした問題状況について、さまざまな校園種の実践者及び多様な研究分野の構成員を要する日本教育メディア学会ならではの多角的な視点をもとに、幅広く議論したい。

◆課題研究 2 メディア・リテラシーを育成する教育方法・教材開発の可能性

コーディネーター：中橋 雄（日本大学）、高橋敦志（上智大学）

新しいメディアが生まれメディア環境が複雑に変化していく中で、メディア・リテラシーを育成する教育の重要性は高まっている。その一方で、メディア・リテラシーを育むために活用される教育メディアの可能性も広がっており、様々な教育方法や教材開発に関する研究が進められている。そうした研究成果を共有することによって、新たな研究の可能性が拓かれると期待することができる。そこで、本課題研究では、メディア・リテラシーを育成する教育方法・教材開発の可能性について議論するための研究を幅広く募集する。

◆課題研究 3 教育メディア研究における ABR とその評価基準

コーディネーター：川島裕子（関西大学）、岸磨貴子（明治大学）

近年、ABR は、教育・心理・社会科学など幅広い分野で注目を集めており、その中でも教育メディア研究との接点が拡がりつつある。ABR は研究の初期段階（問いの生成）から、調査、分析、そして成果の表現に至るまで、アートを媒介とする多様な実践が報告されている。しかしながら、研究成果そのものをアートによって提示する ABR においては、その成果が従来の学術査読の枠組みに収まらないことが多く、国内の学術雑誌等に掲載されにくいという現状がある。これは、ABR の評価や査読の在り方がまだ十分に確立・浸透されていないことに起因している。一方で、海外においては ABR の特性を理解した査読体制が整えられ、アートをを用いた成果物が正式にジャーナルに掲載されている事例も報告されている。本課題研究では、こうした国際的な事例を参照しつつ、教育メディア研究の文脈における ABR の査読・評価の枠組みについて検討したい。そのため、研究成果をアートとして提示した実践研究または評価基準に関する研究を募集し、ABR の評価基準、および、実用性や課題について参加者とともに議論する。

◆課題研究 4 教育メディア研究におけるメディア社会学的アプローチの再検討

コーディネーター：池尻良平（広島大学）

SNS や動画サイト、VR コンテンツなど、多様なメディアが社会において創造される昨今、「教育メディア」の範囲も潜在的に広がっている。近年の教育メディア研究では、方法論として開発や量的・質的調査の方法論を用いている論文が多いが、教育メディアそのものの価値を論じたり、それが社会にどのような影響を与えたりしているかを研究的に論じる方法論も重要といえる。そこで、本課題研究では、教育メディアをメディア社会学の視点で研究している発表を募集し、教育メディア研究の新しい方法論を議論するセッションとしたい。

2024 年度 臨時総会 議事録

[日 時] 2025 年 1 月 21 日 (火) 18:15－18:30

[場 所] オンライン (ZOOM)

[内 容]

(1) 議案

議事に先立ち、有効な委任状（議決権を議長に委任）が 72 通電子総会システムより提出されており、総会への参加者が 17 名であり、学会会則第 44 条に従って 2024 年度臨時総会が成立していることが報告された。

第 1 号議案：会則の第 3 条の文言変更

以下の会則の変更について、審議の結果異議なく承認された。

現在) 第 3 条 本会の事務局は、事務局長の勤務する機関におくものとする。

修正) 第 3 条 本会の所在地は、事務局長の勤務する機関におくものとする。

第 11 期 第 3 回理事会（定例） 議事録

[日 時] 2025 年 4 月 26 日 (土) 13:00-15:00

[場 所] テレビ会議 (zoom) で結び実施

[出席者] 会長，理事 17 名，監事 1 名，評議員 1 名

会長：村上正行

理事：寺嶋浩介，永田智子，池尻良平，市川尚，岩崎千晶，岸磨貴子，工藤雅之，小林祐紀，今野貴之，佐藤和紀，佐藤慎一，泰山裕，時任隼平，中橋雄，堀田博史，渡邊光浩，渡辺雄貴

監事：浅井和行

評議員：宇治橋祐之

オブザーバー：山口好和

事務局：千葉美保子

欠席：稲垣忠，高橋純，山本良太，中川一史，黒上晴夫，堀田龍也，小柳和喜雄，鈴木克明

<審議・報告事項>

(1) 理事の就任の件

2025 年度の年次大会実行委員長を務めていただく北海道教育大学の山口好和氏を新規理事として選出することについて説明があり、審議の結果承認された。

(2) 入会者・退会者・除籍者について

事務局より前回理事会以降の入会者・退会者について説明があり、審議の結果承認された。

(3) 年次大会委員会

- ・資料に基づき年次大会について説明があった。
- ・理事会を1日目の午前(11:00-12:00)に開催することについて協議し、開催を決定した。理事会に関しては、オンライン参加に対応する形で調整することが決定した。

(4) 編集委員会国内担当

- ・資料に基づき、2024 年度の論文誌の査読・刊行状況が報告された。
- ・予算要求は昨年通りであることが報告され、承認された。
- ・EBSCOhost(論文データベース)収録について、J-STAGE 以外にも広く世間に公開する手段をもつことは学会にとってそれなりのメリットがある可能性について情報共有された。

(5) 編集委員会(国際担当)

- ・資料に基づき 2024 年度の論文誌刊行に関して報告があった。
- ・予算要求は昨年通りであることが報告され、承認された。

(6) 研究委員会(国内担当)

- ・資料に基づき、2024 年度の第1回、第2回の研究会の報告があった。
- ・2025 年度の開催予定について資料に基づき報告があった。日程については決まり次第報告する旨、確認された。対面、ハイブリッド開催の増加に伴う予算計画が示され、審議の結果承認された。

(7) 研究委員会(国際担当)

- ・資料に基づき、ICoME2025 の開催および今後のスケジュールについて報告があった。ICoME2025 は 2025 年 8 月 7 日・9 日、韓国・Inha University にて開催される予定である。
- ・ICoME 共催団体である、CAET との協定(MOU)に関して、これまで公式な連携を明示していない状態であった CAET と、公式に学会間の連携を明示するような働きかけを進めている旨、報告があった。また、ICoME への参加者の拡大を背景として、外国人研究者支援を検討を進めていくことが報告された。今後、本学会における位置づけを明確にしていく。さらに、学生レベルの学術交流の場を今後提案していく旨が報告された。
- ・予算要求は昨年通りであることが報告され、承認された。

(8) 広報委員会

- ・Web サイトリニューアルを第10期から引き継ぎ、継続的に実施している旨、報告があった。

- ・資料に基づき、学会通信 114 号から 117 号までの台割に関して各委員への確認を行った。

(9) 企画委員会

- ・情報活用能力に関する企画を検討中である旨、報告があった。

(10) 特定課題研究委員会 (SIG)

- ・資料に基づき、構成メンバーおよび各 SIG のウェブページ、2025 年度の活動計画について報告があり、予算は各 30 万円を予定し審議の結果承認された。今後、構成メンバーの名称や構成について、また内規を今後 SIG 内で検討する旨、報告があった。

(11) 日本教育メディア学会論文賞選考委員会

- ・資料に基づき、論文賞委員会より顕彰委員会に名称変更することについて審議し、承認された。
- ・顕彰委員会規定について堀田委員より説明がなされた。
- ・学生研究奨励賞については学生自身が自己推薦するが、25 年度からの実績を対象とすることが確認された。
- ・顕彰委員会メンバーの増員に関して、今後の状況を踏まえて検討する旨、確認がされた。

(12) 学生研究奨励賞について (事務局)

- ・資料に基づき、事務局より学生研究奨励賞のフロー案が示され、説明がなされた。

(13) 次回理事会開催について

- ・次回理事会開催について確認された。

以上

論文投稿のご案内

『教育メディア研究』特集号 (Vol.32, No.2)

「今後の情報活用能力の育成の意味を問う」募集について

編集委員会

今日、学校現場では、児童生徒が1人1台端末を活用しながら学びを進めることが日常化しています。その中で、学習者が主体的に情報を収集し、それらの情報を整理・分析、まとめ・表現して発信していく際の重要な力となる情報活用能力の育成が重要視されています。学習者が1人1台端末を活用して学習を進める環境が整った今、情報活用能力の意味も捉え直す必要があるように感じます。

情報活用能力は、文部科学省の調査研究を通して、資質・能力の三本柱に整理されました。この整理から、情報活用能力は1人1台端末等々のICT機器を活用する力だけでなく、情報そのものを学習者が効果的に活用し、自ら学びを進めていく力であることが明らかになりました。今日、情報通信技術の劇的な進化により、児童生徒が持つ1人1台端末も高度な処理を実行することが可能になっています。このような時代において、1人1台端末を用いて得ることができる情報は、多様かつ複雑化し、より高度な情報活用能力が学習者に求められるようになってきていると感じます。

また、高等教育においても、学習者が1人1台端末を活用しながら学習を進めていく学習形態が一般化されつつあります。そのような授業形態が進むにつれ、学習者は1人1台端末を効果的に活用しながら、そこから得られる多種多様な情報と向き合い、新たな価値を創造していくことが求められるようになってきています。このような学習者の姿を実現するうえで情報活用能力の育成の意味を今一度問い直す必要があるのではないのでしょうか。

そこで、本学会では、教育メディアの一つである1人1台端末を活用する力である情報活用能力、また、1人1台端末から得られる多様かつ複雑化した情報を使いこなす情報活用能力の育成の意味を問い直す必要があると考えました。

本特集号では、今後の情報活用能力の育成の意味を問う研究を、初等中等教育・高等教育・社会教育といった様々な分野から募集します。

- ・初等・中等教育における情報活用能力の育成についての研究
- ・高等教育における情報活用能力についての研究
- ・授業におけるICT活用の効果に関する研究

上記の例示にとらわれない新分野の研究や理論研究、実践研究、調査研究など様々なアプローチから、今後に活かせる成果を期待します。

本特集号は、2025年8月20日を締め切りとして、2026年2月末に発刊を予定しております。また、同時に一般論文も広く募集いたします。一般論文は随時受け付けています。「投稿規程」を熟読の上、「テンプレート・投稿方法」のページから投稿を行なってください。多くの会員からの投稿をお待ちしております。

以上

学会費納入のお願い，入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2025 年度（2025 年 4 月 1 日－2026 年 3 月 31 日）の年会費（正会員 7,000 円，学生会員 4,000 円）が未納の方は，会員システムからお手続きください。学会 HP の「会員マイページ」よりアクセス可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも，会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合，下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店（ヨンイチハチ店） 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会（ニホンキョウイクメディアガクカイ）
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は，下記記号番号をご利用ください。 記号：14160 番号：8658501
--

- ※ 振込手数料は，ご負担ください。ゆうちょ銀行口座から ATM を使って納入いただく場合，手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は，振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後，事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には，学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は，会費納入に併せて年度ごとに学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。卒業・修了などにより学生会員の条件を満たさなくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では，「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また，学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達，年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために，定期的に会員マイページにログインの上，登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また，まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も，この機会にマイページ登録（<https://jaems.jp/admission/mypage/>）をお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

入会者・正会員 （1名）・・・橋本嘉代

入会者・学生会員（2名）・・・吉見華恋，早川文

退会者・学生会員（2名）・・・呂佳瑞，侯博瀚

会員種別変更 学生会員→正会員（1名）・・・近藤孝樹

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がございましたら、事務局（office@jaems.jp）までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- （1）正会員，学生会員，団体会員ならびに購読会員が，会費を3年間滞納したとき，その年度末をもって除籍され，会員の資格を喪失する。
- （2）除籍された元会員が再入会するとき，滞納会費の納入を要する。

会員総数 404 名・12 団体

名誉会員：7 名*

正会員：336 名

学生会員：68 名

団体会員：6 団体

購読会員：6 団体

（2025 年 6 月 19 日 現在）

*会員総数に含まず。7 名の氏名は学会 HP にて公開。

◆ 学会通信アーカイブ作成ご協力のお願い ◆

本学会は定期的に学会通信を発行し、学会 HP にて公開しています。現在、一部未公開となっている学会通信も揃えられるよう、学会事務局では以前の学会通信を探しております。お手元に**第 1-16, 18, 27 号**が紙もしくはデータ等で残っている場合、学会事務局(office@jaems.jp)までお知らせください。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

日本教育メディア学会 事務局

〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1 丁目 1 番 1 号
広島大学教育学部 A 棟 4 階 402 号室 池尻良平研究室
日本教育メディア学会事務局 宛

E-mail : office@jaems.jp

学会ホームページ URL : <http://jaems.jp/>

広報委員会

委員長 市川尚（岩手県立大学）

副委員長 泰山裕（中京大学）

委員 高橋暁子（千葉工業大学）

委員 尾崎拓郎（大阪教育大学）

委員 谷塚光典（信州大学）

委員 村川弘城（日本福祉大学）